

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101638
法人名	株式会社ボンジュールひうら
事業所名	認知症老人グループホームボンジュールそとめ
所在地	長崎県長崎市神浦丸尾町1180-3 (電 話) 0959-29-8471
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 8月24日

## 【情報提供票より】 (平成19年 8月 3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	セメント瓦葺 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,680 円	その他の経費(月額)	10,171 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 ( 8月 3日現在 )

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85.5 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 外海弘仁会 日浦病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周辺を海、山、川といったように豊かな自然に囲まれており、空気が澄み、居心地が良く、ゆったりとした生活が出来る環境になっている。グループに医療法人や社会福祉法人があり、入退院、緊急時、職員研修、行事など様々な面で連携が期待される。評価の結果は、真摯に受け止め、管理者、職員全員で改善策を検討し、すぐにその検討された事案を実行に移し、より良いサービスへ繋げていこうという意識が感じられる。評価報告は、介護サービスの実際等とともに運営推進会議でも報告がなされている。管理者、職員共に、「人としての尊厳を尊重します」「地域で安心した生活を支援します」「安全に自立した生活を支援します」の3つの介護理念を基に、役割分担をしながら元気に優しく入居者に接している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時の指摘項目は、職員全員での理念の見直し及び作成する事、ホーム自身で作成したホーム便りを発行する事、食事は職員のうち1人は一緒に同じ食事を採る事、エレベータの設置を行うなど、目に見える形で良い方向へ繋がれており、今後の更なるサービスの向上に期待が出来る。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価を作成するに当たり、管理者、職員全員で行われている。自己評価を行い言葉にする事で改めて見えてくる確認事項があるという事だった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホーム概要、サービスの実際や自己評価及び外部評価の結果を踏まえ、改善した事を報告し話し合いを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や要望は、訪問時には随時面接を行っており、他に電話や家族アンケート等でも抽出を行いサービスの向上に繋げている。利用者についての報告も随時行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の住民や施設に対しては、積極的に声かけを行っている。地域の行事にも積極的に参加しており、利用者の楽しそうな様子が、ホーム便りや、ホーム内に掲示されている写真で確認できる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に「尊厳・安全・安心」をキーワードにホーム独自の介護理念を作成し掲げている。この理念は、前期までの理念を見直し、管理者、職員全員で意見を出し合い検討し、作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者、職員全員が作成にかかわっており、職員へのヒアリングの中でも理念の内容をもとに利用者に接している事が確認できた。理念は、ホーム内のわかりやすい場所に掲示されており、誰もが日々確認できるようになっている。	○	新しく地域密着型サービスとしての理念を作成されたばかりという事もあり、新人の職員や利用者の家族に対する理念の共有化への働きかけが弱いようで、例えば新人職員への初期指導時の教育や重要事項説明書への記載等、工夫し共有化に努めて頂きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の祭りに参加や見学をしたり、近くの小学校との交流も行っている。また、ホームの暮らしぶりのわかる写真を新聞のような形にまとめ出品するなど、ホーム周辺の住人にも日々声をかけられる関係である。年間スケジュールも作成されており、その行事へ参加している様子は、写真等をホーム便りに載せる等し、家族に郵送し報告している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は十分に自己評価・外部評価の必要性を理解している。以前の評価結果については、必要な部分は、改善計画シートを作成し、管理者、職員との間で話し合いを行い、着実に改善されており、よりよいサービスの実現に活かされている。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在老人会、民生委員、ホーム職員、管理者、法人代表のメンバーで運営推進会議を開催され、ホームのサービス内容や評価の内容などについて話し合いがなされている。また、会議に関する取り決めや議事録が作成されてある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村への働きかけは、積極的に行っているが、具体的なものの実現までには、至っていない。	○	市町村合併による窓口の変化や市町村側の担当異動等、実現させるためには、いくつかのハードルがあるが、今後も、引き続き働きかけを行っていただいたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、電話やホーム便りで行っており、毎月ご家族へ向けて、金銭管理関連書類とともに報告がなされている。また、家族の来訪時には、その都度面接を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設ける所までは至っていないが、口頭もしくは家族アンケートを実施し、意見や要望を引き出す機会を設けている。具体的には、ホーム内のエレベーター設置は、家族から抽出した要望が実現された件の1つである。また、苦情受付の窓口も明確になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある時は、引き継ぐ際に十分な情報交換を行い、利用者の負担を軽減するよう努めている。また、退職後もホームへ面会に来てもらったり、イベントへの参加を行ってもらっている。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員には別の職員がフォローし、調理、介護のレベル向上を目指し、「チームワーク」を重視している。またグループ内の医療法人や社会福祉法人の協力のもと、感染症や低血糖の対応法などの医療や調理の勉強会を行ったり、講習会では職員の意見交換も行われている。	○	管理者の職員教育への考え方や役割作りがはっきりとしており、共感を覚えた。あとは、それを年間の研修計画表へと具体的に表し、また、職員の自己啓発への協力体制を整えるなどといったような部分でさらに検討されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設とは交流が多くあり、行事を共催している。他にも医療の知識や技術、調理方法の勉強会もグループの協力を得て取り組んでいる。また、管理者は県の講習会の参加などで、県内のほかのグループホームとの意見交換を行っており、介護サービスを行う上で活用している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前にホーム見学に来てもらい体験する事ができる。また、入居前に十分な情報収集を行い、入居がスムーズに済むよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者と同じ目線で物事を考える」ことを心がけ声かけを行い、利用者の状態に合わせた役割を任せ、日常生活を共に楽しみながら過ごせる関係作りに努めている。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の記録、例えば「介護計画・実行表」等の中に詳細に記録がなされ、職員全員が共有できるようになっている。また、ミーティングや申し送りを行い、利用者の思いや意向を把握できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にカンファレンスを行い、検討項目・介護内容・結論・今後の課題の意見交換を行っている。また、家族の方との面接の際に、話し合いを行い、意見を反映するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が実行されたかどうか、見直しが必要かどうかは、「介護計画・実行表」等の記録内容を検討しその都度、行われている。	○	介護計画や必要な書類、記録は整備されているがその整理がうまくできていなかったようなので今一度、見直しをされる事を期待する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば本人の通院時の送迎や重度化によるスムーズな入院の支援など、利用者に対する負担を出来るだけ軽減できるように努めている。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居前のかかりつけ医の医療が受けられるように支援している。新しく他の病院にかかるときは家族の方に連絡を行っている。グループの他法人や協力医療機関との連携が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自で終末医療には取り組んでいないが、グループの医療機関との協力体制が出来ており、重度化した場合に受け入れてもらうなど体制が整っている。また、利用者の心身的な面も考慮し、職員間での話し合いを行い、家族との面接、説明を行った上で同意書を載している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は入社時に守秘義務の指導および誓約書の記入を行っている。職員の言葉掛けも原則、敬称で声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの要望や、日々の記録から体調を把握し、職員間で検討し、一日を個々の利用者のペースで行えるように努めている。また、職員のヒアリングからも利用者の気持ちを尊重し、対応している事が伺える。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から希望を聞き取り、グループ内の管理栄養士を介し、献立に反映している。前回の外部評価の結果を検討し、職員の内1人は、交代で利用者と食事を共に採り、他の職員で見守る体制を採っている。また、検食を行い、意見を出し合い、また、月2回調理勉強会を行い、より適した食事を追求している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日という日は日々のスケジュールの中で特に決めておらず、その都度、利用者の希望があれば入浴できるような柔軟性がある。また、入浴が嫌いな方へは、利用者毎に対応の仕方を検討し、最低でも週3回の入浴を行い衛生を保っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式のアセスメントの利用や日々の会話から利用者の生活歴や好みを抽出し職員全員で把握している。また、おしぼりや洗濯たたみ、新聞取り、暦めくり、たまねぎむき、盛りつけなど、利用者が参加できるような場面作りにも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や病院への通院、要望があればドライブ、買い物などに職員と一緒に外出している。また、グループ施設まで出向き、そこで共催して行われる誕生会や季節のイベントにも参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜のみで、日中は開放されている。居室のドアに鍵はなく、窓の開け閉めも利用者自身で行える。		

認知症老人グループホームボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の消防避難訓練を実施している。自治会や周辺住民にも協力の声かけを行っている。また、懐中電灯や非難備品を常備している。火災、台風、水害の場合の対応マニュアル、連絡網やグループ内の施設での受け入れ体制も確立できており、職員も把握している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量は日誌や「介護計画・実行表」等に記録されている。カロリーや、栄養バランスはグループ内の管理栄養士の指導のもとで緻密に献立作成がなされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に音、空調、光の度合いは適当である。リビングには、ソファやダイニングテーブル、テレビ等が配置されており、利用者は、居心地良さそうに過ごされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者が使い慣れた日用品を持ち込むのは自由で、実際、時計や仏壇といった物が確認され、家族との写真や時を表すような暦等も飾られていた。本人が居心地よく過ごせる工夫をし、職員がミーティングを行い検討し調度類の配置がなされている。	○	使い慣れた物を持ち込む事は、自由となっているが、それ程持ち込みはないようで、部屋は寂しい感じではあった。また、ベッドやタンス、カーテンは、少し病院質で冷たい感じがした。2階の様子を把握する事が難しいため、ナースコールの設置等、対応出来る方法を検討する事を期待したい。

※  は、重点項目。